

野菜の作業 秋～冬期にかけての品目確保と来年の生産にむけての準備をしましょう！

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント						
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・二十日ダイコン ・コマツナ ・シュンギク 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎ ・イチゴ 	<p>【タマネギの定植についてのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定植に適した苗 ■定植の方法 ●苗は根を切らないよう丁寧にこなう。 ●施肥（10㎡当り） <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥・・・20kg ・苦土石灰・・・2kg ・化成肥料・・・1kg ●方法 <ul style="list-style-type: none"> ・条間×株間・・・25cm×12cm ・根が乾いている場合は水に浸漬後に定植するが、この時過燐酸石灰50～70gを水20ℓに溶かした液に浸漬すると活着が良くなる。凍みが強いところは北側を枕に植え、覆土3～4cmとし足で鎮圧する。 						
<ul style="list-style-type: none"> ・エンドウ ・ソラマメ <p>など</p>	<p>収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ ・ハクサイ ・ねぎ ・サトイモ ・シュンギク ・ダイコン ・ニンジン <p>など</p>	<p>（定植時の苗の大きさ）</p> <table border="1"> <tr> <td>千曲中高</td> <td>1本重5～6g</td> <td>茎径5～6mm</td> </tr> <tr> <td>七宝甘70</td> <td>" 4～5g</td> <td>" 4～5mm</td> </tr> </table>	千曲中高	1本重5～6g	茎径5～6mm	七宝甘70	" 4～5g	" 4～5mm
千曲中高	1本重5～6g	茎径5～6mm						
七宝甘70	" 4～5g	" 4～5mm						

■エンドウ、ソラマメの播種

- ・連作をきらうので4～5年作付けしていないところを選ぶ
- ・施肥（10㎡当り）
 - 堆肥 30kg
 - 苦土石灰 2kg
 - 化成肥料 1kg
- ・播種期

エンドウは本葉2枚程度、ソラマメは4枚程度で越冬時する時期とする。（エンドウは10月下旬、ソラマメは10月中旬頃）

- ・畝幅×株間 90cm×30cm
- 3～4粒播き
- ・籾殻、稲ワラで防寒する

【パイプハウスを活用して冬期間も葉野菜を作りましょう！ NO.2】

【べたがけ溝底播種法】で冬期間の栽培を拡大しましょう！！

東北農業試験場で開発した「べたがけ溝底播種法」を実施することで冬期間の栽培管理が容易（**二重被覆などの手間が必要ない**）になります。

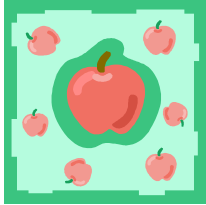
これまでの方法（対照法）

溝底播種法

- 効果（東北農試試験結果より）
 - 初期生育促進（初期成長1.7倍）
 - 凍害防止（凍害株率30%減少）
 - 気温上昇効果（1.2度上昇効果に匹敵）
 - 寒締めすることによって味・栄養価が高まる。

※べたがけ資材は、タパル、パスライト、パガオなどなんでも可。

果樹の作業



【ふじの葉摘みについて】

支柱立て・枝つりを行い、光条件を良くします。葉摘みは最初果そう葉を中心に除き、10月に入ってから徐々に強めに行なっていきます。早くから強い葉摘みを行なうと色戻りや着色が良く上がりませんので注意してください。また、玉回しは陽光面が30%程度着色したら行ないます。

花きの作業

【グラジオラス球根の掘り取り】

葉が黄化した10月下旬から11月上旬に球根を掘りあげます。球根を掘る時期が遅くなると木子が残りやすくなり、病気の発生源となりますので注意してください。

球根は貯蔵中病気が発生しやすいので掘りあげ後3日以内にキュアリング処理を行います。処理までに球根が乾燥しないように注意してください。キュアリングは、温度30～35℃、湿度80～90%の状態に球根を置き、病害に弱い品種は6～7日、強い品種で3～4日の処理を行います。キュアリング処理しない場合は殺菌剤に浸漬して充分乾燥させてから貯蔵してください。



【きく苗の確保準備】

来年の栽培用の苗の準備として、冬至芽を利用する場合と株分けによって増やす場合があります。株分けによる場合は、10月中下旬に掘り取り、パイプハウスや小トンネルに伏せ込みして養成し、12月頃に出た芽を挿芽し、それを親株として苗をとるようにするとその後の生育のよい苗が採れます。



農業豆知識

質問コーナー

土壤診断の必要性がいられていますが、土壤中の養分と病害の発生の関係を教えてください。

◆窒素と病害

窒素過多により、植物体内で病害抵抗性に関係が深いとされているケイ酸やカルシウムの濃度が相対的に低くなることや、リグニンが減少し罹病しやすくなると言われています。

◆リン酸と病害

従来リン酸の過剰による障害はあまり見られませんでした。アブラナ科の野菜の根こぶ病、ジャガイモのそうか病が増えるという報告があります。理由として土壤の電気的变化、土壤中のアルミニウムが固定されてしまうことなどが言われています。

◆カルシウムと病害

土壤中の石灰が過剰になるとジャガイモそうか病が増え、逆にアブラナ科の根こぶ病が減少することが言われています。最近、植物体内のカルシウム濃度が増えると、インゲン軟腐病、トマトの青枯病、萎ちょう病、レタス灰色カビ病などの発生が少なくなるとの報告があります。

◆ケイ酸と病害

ケイ酸の効果が高い病気としてイネのいもち病が知られていますが、野菜類ではウリ科で比較的吸収量が高く、病害への効果は、キュウリ、イチゴなどのうどんこ病、キュウリつる割病への効果が確認されています。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター

櫻井主任企画員

(TEL25-7157)